

(2) 資料 (録音をもとに印刷した児童用で、時間の終了近くに渡したものである。)

ないた赤おに

みなさんは、おにを していますか。そう、  
あたまにつのがはえている あの おに。

これは、むかし むかし まだ 赤おにや 青  
おにが山おくに すんでいたころの おはなしで  
す。

(歌)

{ 赤いおには 大きらい 青おにも 大きらい }  
{ 赤いおにが きたら まめまいて おっぱらえ }  
{ 青いおにが きたら はりで 目んたま }  
つつつけ

「どうして にんげんは、ぼくたち おにを あ  
んなにきらいなんだろう。どうして おにと に  
んげんが なかよくしちゃ いけないのだろう。」

ある山の がけのところに すんでいる 赤お  
には、うまれつき とても 気もちの やさしい  
おにでした。かおつきも いままでの おにとち  
がって どこか やさしいところが ありました。  
「ぼくは おにだけど、でも 村の人たちとも  
なかよくくらししていきたいな。あたまに つのが  
はえていたって わるいことさえ しなければ  
にんげんだって きっと あそびに きてくれる  
さ。」

そこで 赤おには、じぶんのいえのまえに こ  
んな たてふだを たてました。

『心のやさしい おにのいえです。おいしい お  
ちゃとおかしを ごちそうしますから どなた  
でも おいでください。赤おに』

「おい見ろよ、ここに へんな たてふだが あ  
るぞ。」

「なに なに おにが おちゃを ごちそうして  
くれるって。へえ うまいことをいって おれた  
ちが はいっていったら バリバリと たべてし  
まうに ちがいない。」

「まったくだ。あぶない、あぶない。さあ はや  
いとこいえへ かえろ。」

村の人たちは、たてふだを 見ても だれひとり 赤おにのいえには あそびには きませんで

した。

気もちのやさしい 赤おには がっかりしまし  
た。いえ それよりも やたら はらが たって  
きました。

「なんだい。せっかく なかよしになろうと 思  
ったのに、こんな たてふだ ちっとも やくに  
たちやしない。ええい、こわしてしまえ。なんだ  
こんなもの なんだ こんなもの。」

「おい おい。」

「なんだ こんなもの。こんちくしょう。こんな  
の こわしちゃえ えーい。」

「おい、赤おにくん。」

「あっ なんだ 青くんか。」

それは、むこうの いわ山に すんでいる 友  
だちの 青おにでした。

「どうしたんだい。手あらかなことを やらかして  
いつものきみらしくない。ねえ なにか あった  
のかい。」

「ええ うん まあ その ちょっと。」

赤おには、たてふだを たてたこと、でも 村  
の人たちは だれも あそびに きてくれなかつ  
たことを はなしました。

「ねえ、青くん。どうして おにと にんげんは  
なかよく できないんだろう。」

(歌)

{ おにの あたまにゃ つのがある }  
{ 人の あたまにゃ つのがない }  
{ だけど それがなんだろう }  
{ 人の目には なみだが やどる }  
{ おにの目にも なみだは ひかる }  
{ それは おんなじ きれいな なみだ }  
{ 人の あたまにゃ つのがない }  
{ おにの あたまにゃ つのがある }  
{ だけど それがなんだろう なんだろう }

「ようし わかった。そんなに 村の人と つき  
あいたいのなら ぼくに いい 考えがある。さ  
あ いっしょに村へ 行こう。」